

第5回運営推進会議記録

事業者名および住所	合同会社 たけのこカンパニー 逗子市逗子3-3-23
事業所名および住所	リハビリセンター彩 逗子市逗子3-3-23
開催日	令和3年5月28日（金）文書
開催場所	リハビリセンター彩
出席者 （文書照会 ・ 口頭聞き取り）	事業者 竹内 美穂 家族代表 1名 逗子市中部地域包括支援センター 喜代門 様 逗子市高齢介護課 青山 様
議題・課題	(1) 利用者状況について (2) 職員の状況 (3) 報酬加算状況 (4) 事故報告書 (5) 活動報告 ①個別機能訓練について ②地域交流について ③作業療法士実習生受け入れ (6) 質疑応答、要望、意見交換
活動報告	①個別機能訓練について ・ハンドセラピー 感染予防により中止 ・歩行補助具相談 11名 ・腱鞘炎予防ストレッチ 4名 ・麻痺側手指訓練 4名 ・嚥下訓練（DVD使用） 4名 ・外出訓練 1名 →大声を出す発声訓練は中止 ・補装具などの相談 3名 ・調理訓練 1名 ②地域交流について ・感染予防のため中止 ③作業療法士実習生受け入れ ・令和2 1月6日から2か月 神奈川県立保健福祉大学 1名 ・令和2年 8月3日～1週間 東京工科大学 3名 ・令和3年 1月12日～2か月 神奈川県立保健福祉大学 1名 ・令和3年 4月12日～2か月 東京工科大学 1名 ・令和3年 6月14日～2か月 東京工科大学 1名

(家族代表より 意見 5/26自宅にて聞き取り)

一緒に訓練されている方も良い方たちで、本人が楽しそうに通えていることが嬉しい。子どもたちに迷惑をかけたくないので、リハビリを頑張ってもらいたい。

(逗子市中部地域包括支援センター 喜代門氏より 文書にて意見)
他のデイサービスと比べると、(感染防止対策の)規制が厳しい…という声があがっている。感染リスクも充分分かる。ケアマネジャーからも感じている声は聞こえてきているので、これにより利用者が減少しないか心配している。〇〇さん(喜代門氏が担当しているご利用者名)も心配している。

→(電話にて返答)

彩:「規制が厳しいという意見がケアマネジャーから聞かれ、利用者が減少しないか心配。」というのは、包括やケアマネジャーの方が規制が厳しいとご利用者に紹介しないということなのか。

包括:そうではない。規制が厳しいという声はケアマネジャーから聞かれた。利用者数が減少していたので心配になったので意見書に記載した。ガイドラインの説明文の書き方が厳しいという感想も聞かれた。

彩:ご利用者が減少しているのは、新規ご利用者を取れていないことが大きい。部屋が狭いので、ソーシャルディスタンスを確保した座席配置に変えてから6名までしか同時に利用できなくなってしまった。また、運転手が1人辞めたこと、体調が安定していない職員がいることも影響している。

確かに、利用中止になった方の中には、定期的に外食をしたいという方が2名、離れた家族との会食を定期的にしたいという方が1名、ガイドラインを忘れて外食し、その際のスタッフの対応がきっかけとなった方が1名いた。

一方で、厳しくしてもらったおかげで安心して通えるという声や、断ったのに遠方の家族が正月に来ようとするので「リハビリに通えなくなるから」と断る理由にできた、という声もあった。

新規の問い合わせでは、「それほど厳しくやっているところなら安心なので、新規対応開始したらぜひ通いたい。」とも言ってもらっている。

3/21に緊急事態宣言が解除となり、ガイドラインを緩和した。

(内容についてはご利用者に口頭で説明し、HPで公開した。)

そのことから、自主的に外出・外食や家族との会食を自粛し、彩を唯一の外出としていた方が、彩の利用を中止されてしまった。

何もかも我慢している方が安全に出かけられる場所としていたのに、そうあれなかったことは残念に思っている。

質疑応答・要望・
意見交換

ガイドラインの文面が厳しかったとの意見については、専門職の方の意見として真摯に受け止め、発行物を作成する際に活かしたい。
包括：ガイドラインが変更になったことを知らなかった。感染対策に力を入れていることは施設の特徴でもあることが分かったので、ケアマネジャーにはアピールをした方がよい。

彩：ケアマネジャーの方には施設の特徴としてご説明いただき、ご利用者に選んでもらえる事業所になれば嬉しい。

包括：担当しているご利用者が利用者が減少し、経営的な面を心配している。

彩：先述した通りの理由で利用者数が減少している。補助金などを活用し、コロナ禍を乗り切りたい。

その他必要な事項

次回開催予定 2021年11月頃